



今年も鈴川を舞台に「野鳥観察会」がもたれました。

例年通り、「東橋」が集合地点です。主催者からは、参加者は30名、指導にあたる「こまたん」の方々が40名ほどと伝えられました。

参加者にとって、指導者の数は贅沢です。



雲が渡る天候で、少し肌寒く感じられました。鈴川の中州の野草は枯れ、緑はあまり見られません。

出発の直後です、防寒着に包まれています。

野鳥はいるのかな？見られるのかな？期待をコートに包みながらのスタートです。

まず、目に飛び込んできたのは、つがいかな、2羽の「カルガモ」でした。

土手に続く砂利辺に、流されることなく、浮いていました。



「コガモ」



「マガモ」

つがいと思われます。
のんびりと流れに身を
任せています。



指さしは「こまたん」の方です。鈴川を見て、「沿岸の雑草を刈り込むと餌がなくなり、鳥にとっては迷惑千万、野鳥は住めなくなってしまいます。

除草をする時には、草の根の近くからでなく、上の方を刈り込むようにすると次の芽生えを期待することもできます」と教えてくれました。

参加者は、鈴川の現地を見ながら、納得でした。



「コガモ」が群れています。

野鳥も生物、人も生物です。自然環境から離れることのできない私たちです。鳥との共生を考慮した生活を営まなければなりません。



「キセキレイ」

スズメ目、セキレイ科に属しています。胸から腹にかけて黄色い羽根に覆われているので、この名前が付けられました。

溪流、河原、水田などに棲み、尾を上下に動かす習性があります。

最近あまり見かけなくなり「以前、花水川で見かけたけれど、ここで2羽も見られたことは感動ものだ」との話し声が聞こえてきました。





メンバーが遠方の枯れた水田を見やっています。

「何だ、何だ・・・」

「何が見えますか？」

視線、望遠鏡、カメラの先方には
そうです。「タゲリ」です。

しかも、何羽か・複数のタゲリが餌をついばんでいます。



以前にも記しましたが、この辺りや茅ヶ崎は、神奈川県内でも珍しく多くのタゲリに会え、観察できます。神奈川県内でも有数のビューポイントとなっています。

実に幸運です。タゲリに出会いました。

「鈴川、花水川周辺は、日本の中でも自慢できる、人里に近い自然豊かなところ」と「こまたん」の方に教わりました。それを聞き、一層、観察眼を研ぎ澄ませました。





この土手道は、サイクリングロードで、自動車、二輪車は走行禁止です。談話が弾み、列を組んで歩いても問題ありません。

この道を北に向かい、「相模大山」を右手に見ながら30分ほど行き、南に折れて、30分ほどで金目川（花水川）に出ます。そこから川沿い、一気に南に進路を取り、歩いて小一時間、湘南の海岸に到着します。

何を見つけたのでしょうか、カメラ、望遠鏡の列ができました。

近くの休耕田に草々が生え、珍しい鳥が飛来します。すると、東京、横浜などの遠方からのナンバーを付けた車両が並び、望遠レンズの砲列が占領します。

「鳥撮り」の人たちです。

「野鳥にも魅力、人にも魅力ある」この自然、守らねばなるまい。



出発から約2時間、メンバーが集合し、今日見た野鳥の名前を確認します。

「鳥あわせ」と呼ばれます。あらかじめ配布された野鳥の名前表を見ながら、出合った鳥の名前を確認します。

カモ科(マガモ、カルガモ、コガモ)

...

全部で37種を数えました。

「こまたん」の方「野鳥種の多い鈴川、花水川周辺は、

日本の中でも自慢できる、人里に近い自然豊かなところですよ」の教え、思い出しました。

(この報告ではカメラ技術が追い付かず、わずかな野鳥しか紹介できませんでした・お詫びします)

帰路、畑地を耕すトラクターの後につく「タゲリ」に出会いました。掘り返され、土中の餌を追っているのです。

至近距離から撮影でき、幸せを感じました。

通称「貴婦人」と呼ばれるそうです。しっかりと冠を付け、キリリとした姿は貴婦人そのものです。

日差しを受けると、羽の色が輝くといわれます。あいにくの曇り空、それは見られませんが、至近距離から姿に触れただけで吉です。

